

基研研究会

「新しい物質場としてのボース・ アインシュタイン凝縮系」

(1999年4月19日受理)

日時・場所 : 2月22日～23日 於基礎物理学研究所

研究会の内容 : アルカリ原子のボース凝縮という始まったばかりの分野の研究会で、実験と理論両方の研究者が集まり相互の交流を図ることを目的とした。研究会には期待以上の50人近い参加者があり大変盛況であった。

世話人 : 町田一成 (岡山大)、藪崎努 (京大)、大見哲巨 (京大)

「新しい物質場としてのボース・アインシュタイン凝縮系」
研究会プログラム

2月22日(月)

13:30-14:20 量子凝縮を目指したSr原子のレーザー冷却

科学技術振興事業団 香取秀俊

14:20-15:10 ルビジウム原子気体のボースアインシュタイン凝縮

学習院大理、東大総合 鳥井寿夫、久我隆弘、上妻幹男

15:40-16:30 Rb原子のBECの実験

京大理 豊田健二

16:30-17:00 励起子系のBEC研究の現状と将来

東大理 長澤信方

2月23日(火)

9:30-10:00 内部自由度を持ったBEC

京大理 大見哲巨

10:00-10:30 希薄ボース原子気体の二流体力学

東工大理 二国徹郎

10:50-11:20 渦糸に関する理論的考察

岡山大大理 磯島知也

11:20-11:50 ボースアインシュタイン凝縮における非線形物理

東大理 鶴見剛也

13:30-13:50 クーパー対と気体-液体転移

高知大教育 国府俊一郎

13:50-14:10 トーラス超流体の量子粘性

早稲田大工 西田宗弘

14:10-14:30 独立なボース凝縮体間の干渉性について

東北大理 石井力重

15:00-15:20 Bose-Einstein凝縮体の膨張と干渉効果

都立大理 小田研二

15:20-15:40 トラップされたボソンフェルミオン凝縮系の静的性質

都立大理 宮川貴彦

15:40-16:00 角運動量を持ったボースアインシュタイン凝縮体の基底状態

広大工 木村敬、上田正仁、斎藤弘樹